

AZ488  
Script File Generator  
Instruction Manual

株式会社DTSインサイト

# INSTRUCTION MANUAL

## 改訂履歴

版	発行日時	変更内容
第1版	2013. 01. 22	新規発行
第2版	2013. 10. 03	プローブセレクトコマンド追加

## <ご注意>

- (1) 本書の内容を一部又は全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容については、改良のため予告無しに変更することがあります。
- (3) 本書の内容について、ご不審な点やお気づきの点がありましたら、御連絡下さい。
- (4) 本製品を運用した結果の内容の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承下さい。

Copyright 2013 DTS INSIGHT CORPORATION All rights reserved.

Printed in Japan.

## 目次

1	概要.....	4
2	システム動作環境.....	5
3	インストール手順.....	6
3.1	AZ488 のインストール .....	6
4	画面説明 .....	9
4.1	メイン画面 .....	9
4.2	バージョン画面 .....	14
5	使用方法 .....	15
5.1	スクリプトの編集.....	15
5.2	スクリプトの保存.....	19
5.3	スクリプトの読み込み .....	20
5.4	スクリプトの新規作成 .....	22
5.5	バージョン情報表示.....	24
5.6	AZ488 の終了 .....	25
6	エラーメッセージ.....	26
7	スクリプトファイル仕様.....	27

## 1 概要

AZ488 は NETIMPRESS next で使用するスクリプトファイルを作成するソフトです。

## 2 システム動作環境

AZ488 は下記の環境にて動作します。

IBM PC/AT 互換機

OS Windows XP / Windows Vista / Windows 7

言語 日本語、英語

CPU 1GHz 以上を推奨

メモリ 512MByte 以上を推奨

モニタ 800×600 以上を推奨

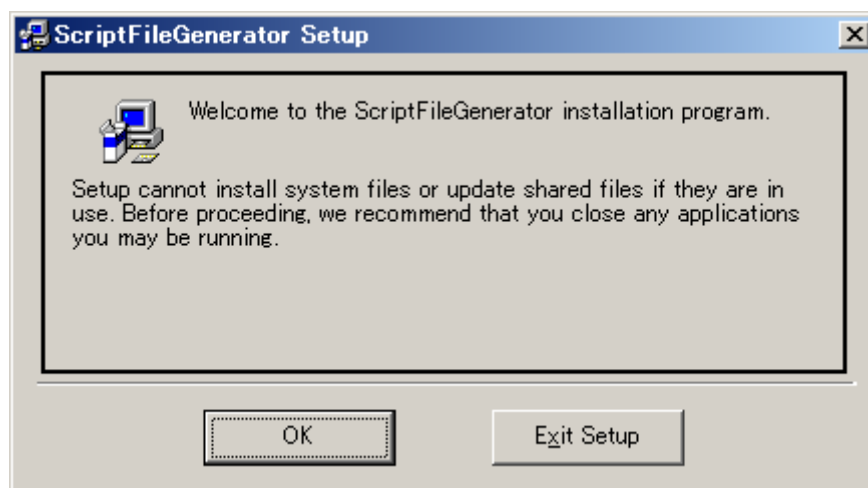
### 3 インストール手順

以下の手順に従って、インストールをしてください。

注) インストールするには、Administrator 権限を持つユーザーで PC にログインしてください。

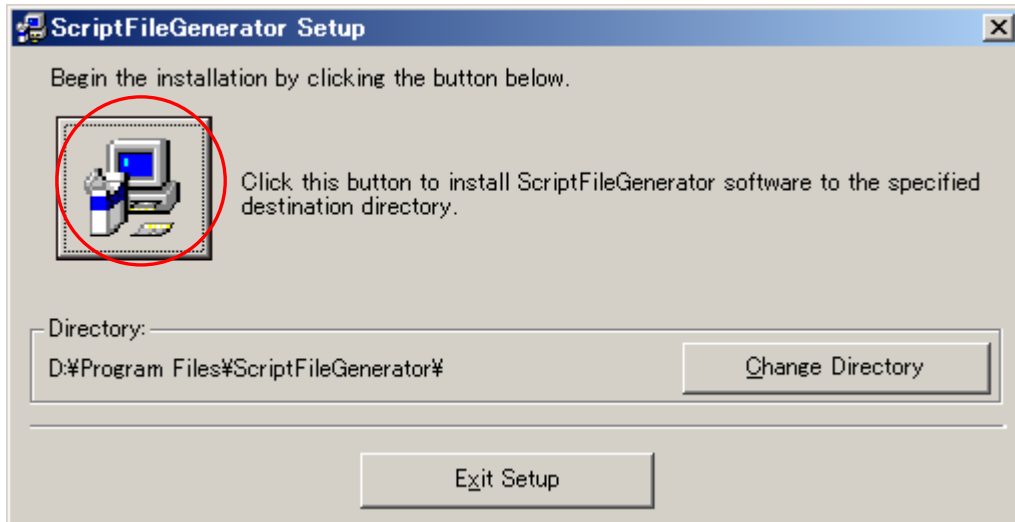
#### 3.1 AZ488 のインストール

AZ488 のセットアップフォルダにある、Setup.exe を起動します。  
次の画面が表示されます。



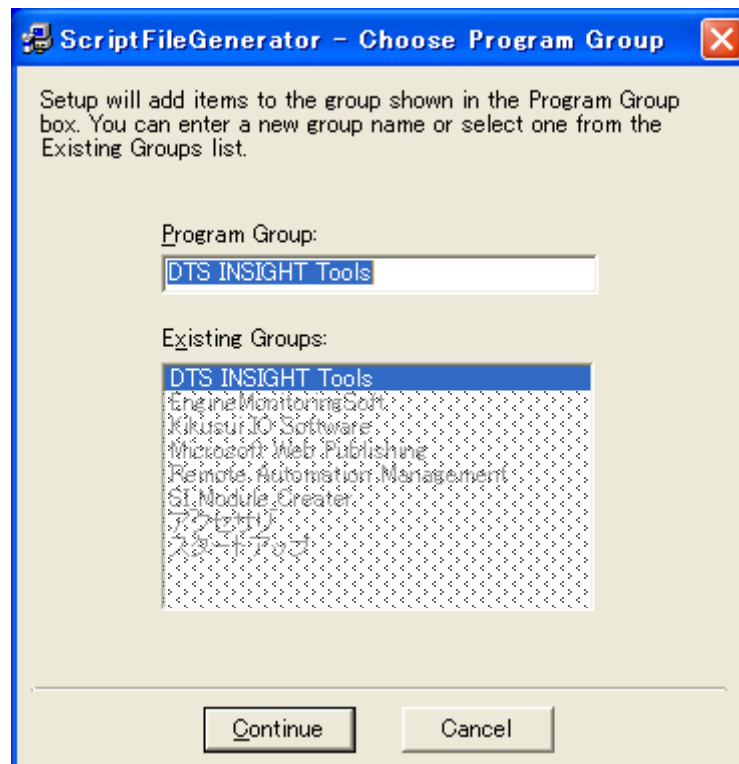
OK ボタンを押してください。

次に、インストール先を設定する画面が表示されます。



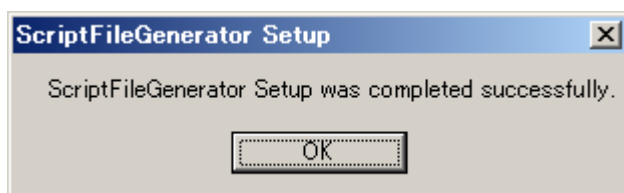
インストール先を変更したい場合は、Change Directory ボタンでインストール先を変更してください。インストール先を指定後、画面左上のボタンを押してください。

次に、スタートメニューに表示されるグループ名の設定画面が表示されます。



設定を変更せずに、Continue ボタンを押してください。

セットアップが開始され、正常に終了すると下記画面が表示されます。

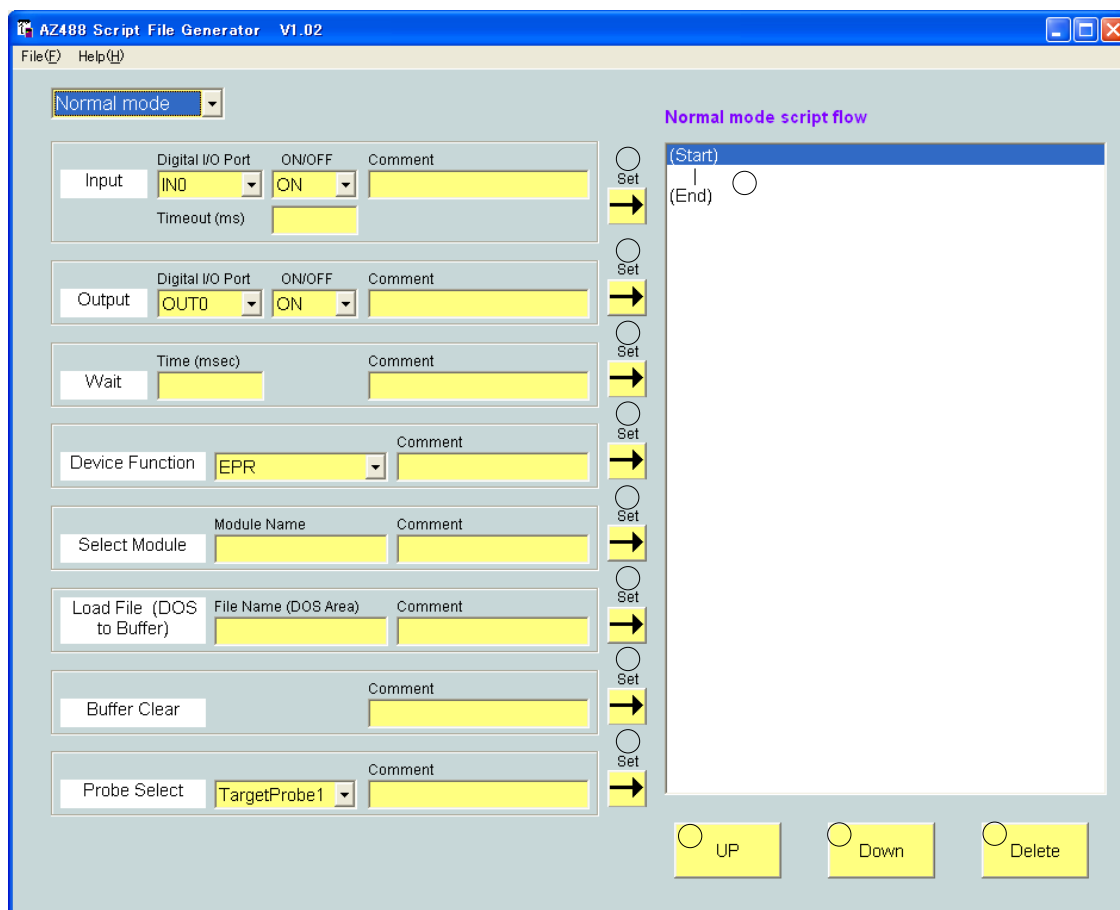


以上で AZ488 のインストールが終了します。



## 4 画面説明

### 4.1 メイン画面



#### ①メニュー

ファイルのオープンやセーブ、バージョン情報表示を行います。

#### ②モード選択コンボボックス

Normal mode/Error mode の選択を行います。

③DIO 入力ポート選択コンボボックス

DIO 入力ポートを IN0/IN1/IN2/IN3/IN4 から選択します。

④DIO 入力レベル選択コンボボックス

DIO 入力レベルを ON/OFF から選択します。

⑤DIO 入力コメント入力ボックス

DIO 入力コマンドにコメントをつけたい場合、コメントを入力します。コメントにはコロン(“:”)以外の英数字および記号が使用可能です。

⑥DIO 入力タイムアウト入力ボックス

DIO 入力待ちのタイムアウト時間を ms 単位で入力します。

0 を入力した場合、DIO 入力待ちのタイムアウトはなしとなります。

未入力とした場合、0 が自動的に設定され、タイムアウトなしとなります。

タイムアウトの最大値は 99999ms です。

⑦DIO 出力ポート選択コンボボックス

DIO 出力ポートを OUT0/OUT1/OUT2/OUT3/OUT4 から選択します。

⑧DIO 出力レベル選択コンボボックス

DIO 出力レベルを ON/OFF から選択します。

⑨DIO 出力コメント入力ボックス

DIO 出力コマンドにコメントをつけたい場合、コメントを入力します。コメントにはコロン(“:”)以外の英数字および記号が使用可能です。

⑩ウェイト時間入力ボックス

ウェイト時間を ms 単位で入力します。

ウェイトの最大値は 99999ms です。

⑪ウェイトコメント入力ボックス

ウェイトコマンドにコメントをつけたい場合、コメントを入力します。コメントにはコロン(“:”)以外の英数字および記号が使用可能です。

⑫ デバイスファンクション選択コンボボックス

デバイスファンクションを **EPR/Program/Erase/Blank/Copy/Read** から選択します。

⑬ デバイスファンクションコメント入力ボックス

デバイスファンクションコマンドにコメントをつけたい場合、コメントを入力します。コメントにはコロン(“:”)以外の英数字および記号が使用可能です。

⑭ モジュール名入力ボックス

YIM フォルダ名を入力します。

⑮ モジュール選択コメント入力ボックス

モジュール選択コマンドにコメントをつけたい場合、コメントを入力します。コメントにはコロン(“:”)以外の英数字および記号が使用可能です。

⑯ ロードファイル名入力ボックス

ロードするファイル名を入力します。

⑰ ロードファイルコメント入力ボックス

ロードファイルコマンドにコメントをつけたい場合、コメントを入力します。コメントにはコロン(“:”)以外の英数字および記号が使用可能です。

⑱ バッファクリアコメント入力ボックス

バッファクリアコマンドにコメントをつけたい場合、コメントを入力します。コメントにはコロン(“:”)以外の英数字および記号が使用可能です。

⑲ プローブセレクト選択コンボボックス

**TargetProbe1/TargetProbe2/ProbeSelect** から選択します。

プローブセレクト選択コマンドは、NET IMPRESS next の Firmware バージョン 13.01 以上で使用可能です。バージョン 13.00 ではプローブセレクトコマンドに対応しておりませんのでご注意ください。

⑳ プローブセレクトコメント入力ボックス

プローブセレクトコマンドにコメントをつけたい場合、コメントを入力します。コメントにはコロン(“:”)以外の英数字および記号が使用可能です。

#### ㉑DIO入力情報設定ボタン

DIO 入力情報をスクリプトに設定します。

すでにスクリプトに設定されているコマンドが **256** 個の場合、エラーが表示され、スクリプトへの設定は行われません。

#### ㉒DIO出力情報設定ボタン

DIO 出力情報をスクリプトに設定します。

すでにスクリプトに設定されているコマンドが **256** 個の場合、エラーが表示され、スクリプトへの設定は行われません。

#### ㉓ウェイト情報設定ボタン

ウェイト情報をスクリプトに設定します。

すでにスクリプトに設定されているコマンドが **256** 個の場合、エラーが表示され、スクリプトへの設定は行われません。

また、ウェイト時間が未入力の場合、スクリプトへの設定は行われません。

#### ㉔デバイスファンクション情報設定ボタン

デバイスファンクション情報をスクリプトに設定します。

すでにスクリプトに設定されているコマンドが **256** 個の場合、エラーが表示され、スクリプトへの設定は行われません。

#### ㉕モジュールセレクト情報設定ボタン

モジュールセレクト情報をスクリプトに設定します。

すでにスクリプトに設定されているコマンドが **256** 個の場合、エラーが表示され、スクリプトへの設定は行われません。

また、YIM フォルダ名が未入力の場合、スクリプトへの設定は行われません。

#### ㉖ロードファイル情報設定ボタン

ロードファイル情報をスクリプトに設定します。

すでにスクリプトに設定されているコマンドが **256** 個の場合、エラーが表示され、スクリプトへの設定は行われません。

また、ロードファイル名が未入力の場合、スクリプトへの設定は行われません。

⑳ バッファクリア情報設定ボタン

バッファクリア情報をスクリプトに設定します。

すでにスクリプトに設定されているコマンドが **256** 個の場合、エラーが表示され、スクリプトへの設定は行われません。

㉑ プロブセレクト情報設定ボタン

プロブセレクト情報をスクリプトに設定します。

すでにスクリプトに設定されているコマンドが **256** 個の場合、エラーが表示され、スクリプトへの設定は行われません。

㉒ スクリプト表示リスト

ノーマルスクリプト/エラースクリプトの内容を表示します。

㉓ スクリプトデータアップボタン

スクリプト表示リスト中で選択されているデータを、1つ上のデータと入れ替えます。

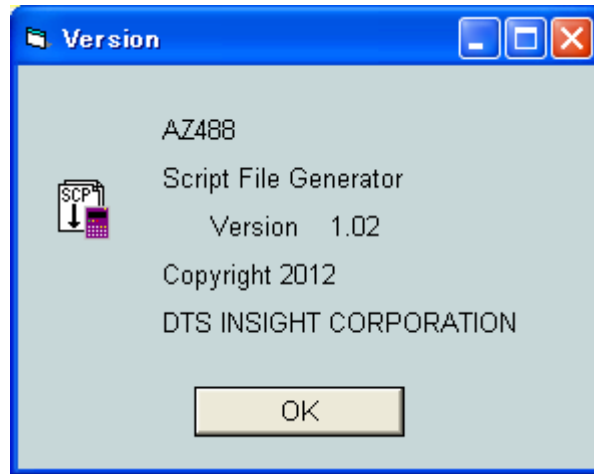
㉔ スクリプトデータダウンボタン

スクリプト表示リスト中で選択されているデータを、1つ下のデータと入れ替えます。

㉕ スクリプトデータ削除ボタン

スクリプト表示リスト中で選択されているデータを削除します。

## 4.2 バージョン画面



現在ご使用の AZ488 のバージョン情報を表示する画面です。

(画面は一例です。ソフトのバージョンにより、**Version** の右にあるバージョン番号は変化します。)

## 5 使用方法

### 5.1 スクリプトの編集

AZ488 を起動すると、メイン画面が表示されます。

メイン画面で次の操作を行い、スクリプトを編集します。

なお、スクリプトファイルの説明につきましては、本マニュアルの7章をご参照下さい。

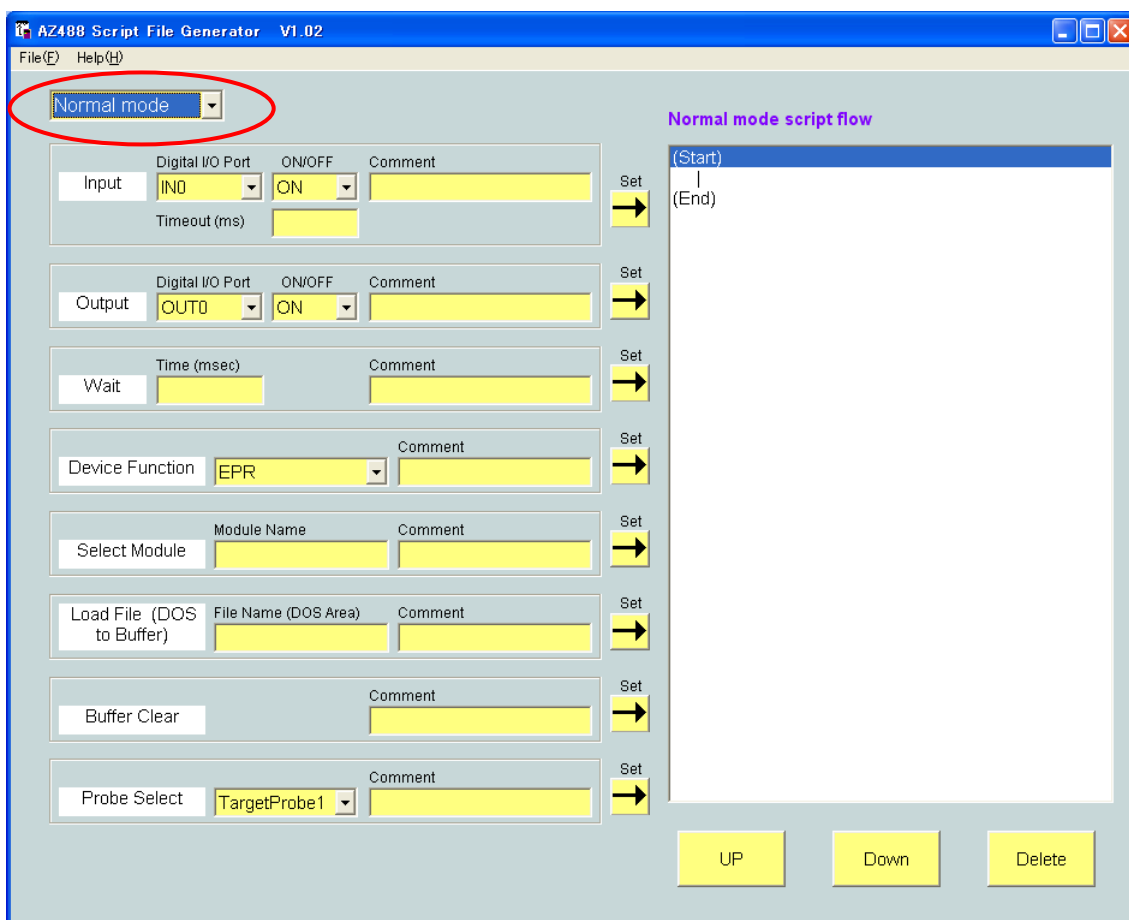
#### (1) モード選択

モード選択コンボボックスを使用し、編集したいスクリプトを選択します。

ノーマルスクリプトを編集する場合は **Normal mode** を選択します。

エラースクリプトを編集する場合は **Error mode** を選択します。

選択後、選択したスクリプトのスクリプトデータがスクリプト表示リストに表示されます。



## (2) データ/コメント入力

スクリプトに追加したいコマンドのデータやコメントを入力します。

追加したいコマンドにより、下図の赤丸で囲った部分のうち、下記の番号に対応する箇所に入力してください。

なお、コメントの入力は任意です。

DIO 入力情報コマンド…①

DIO 出力情報コマンド…②

ウェイトコマンド…③

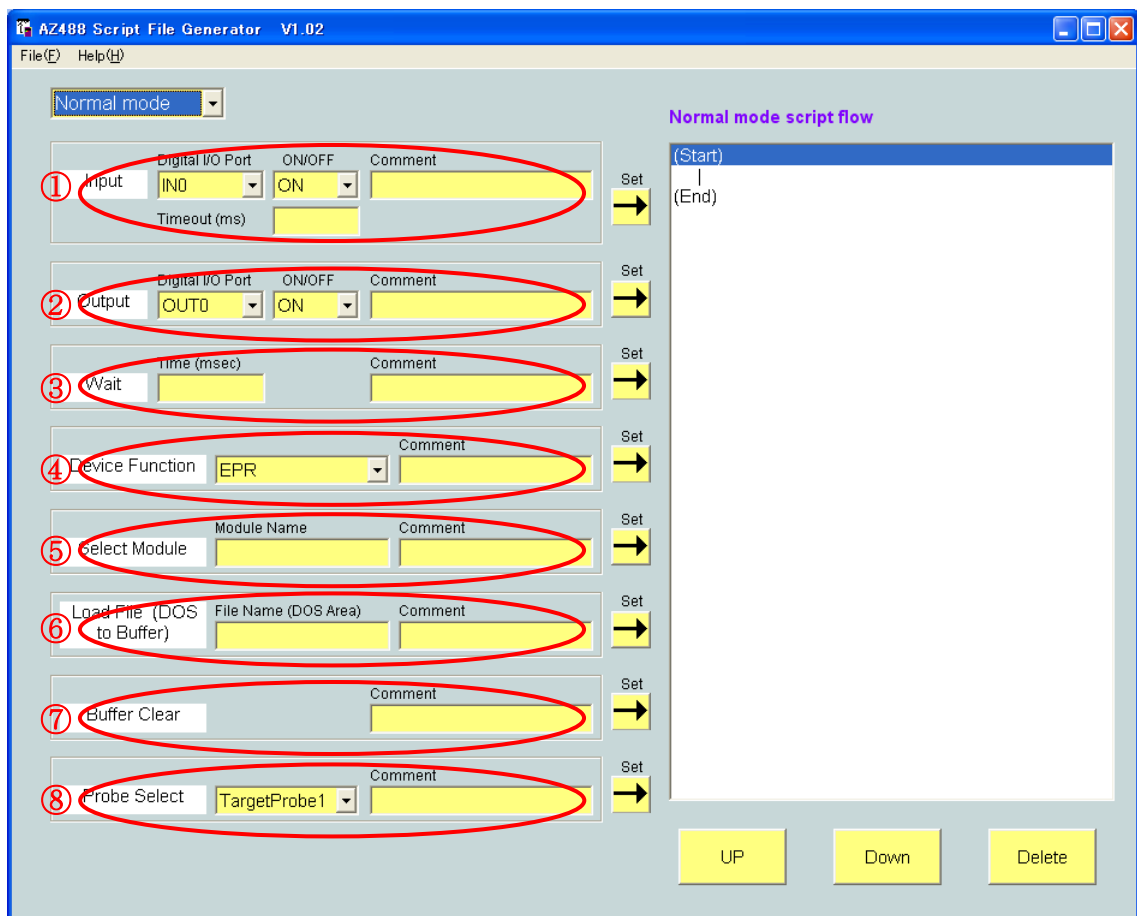
デバイスファンクションコマンド…④

モジュール選択コマンド…⑤

ファイルロードコマンド…⑥

バッファクリアコマンド…⑦

プローブセレクトコマンド…⑧





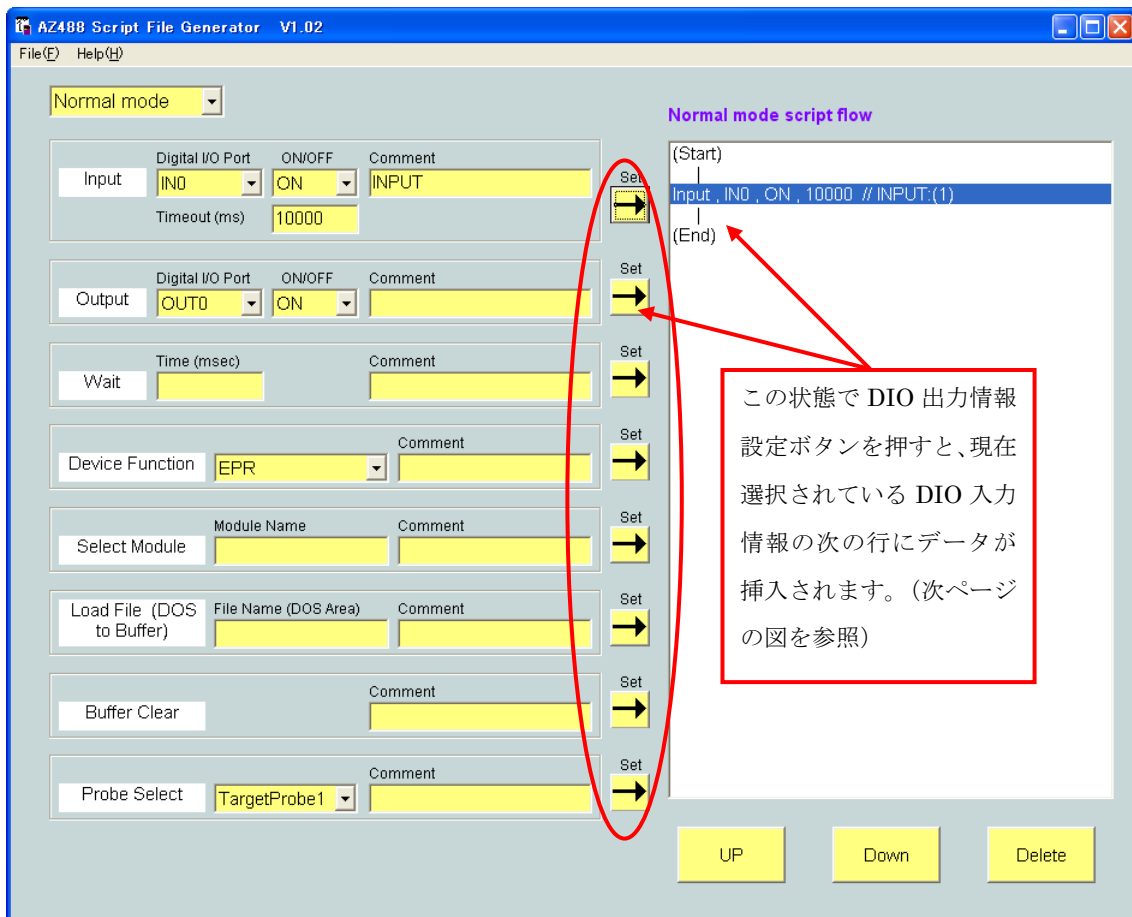
### (3) スクリプト設定

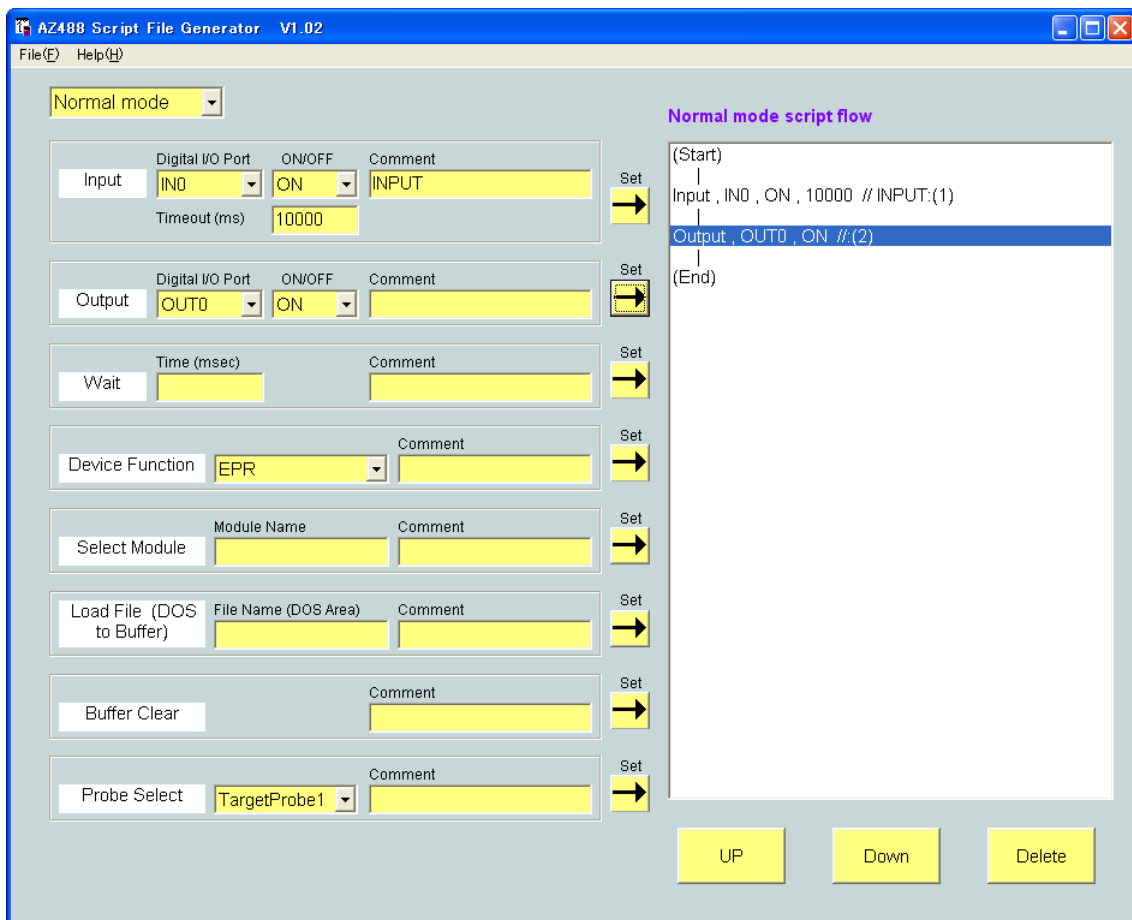
(2) で入力したデータを、スクリプトに設定します。

入力したデータの右隣にある設定ボタンをクリックすると、データがスクリプト表示リストに設定されます。

設定ボタンクリック時にスクリプト表示リストにデータが設定される位置は、スクリプト表示リストで選択されている行の次の行です。

ただし、(End)の行を選択している場合は、(End)の前の行に設定されます。





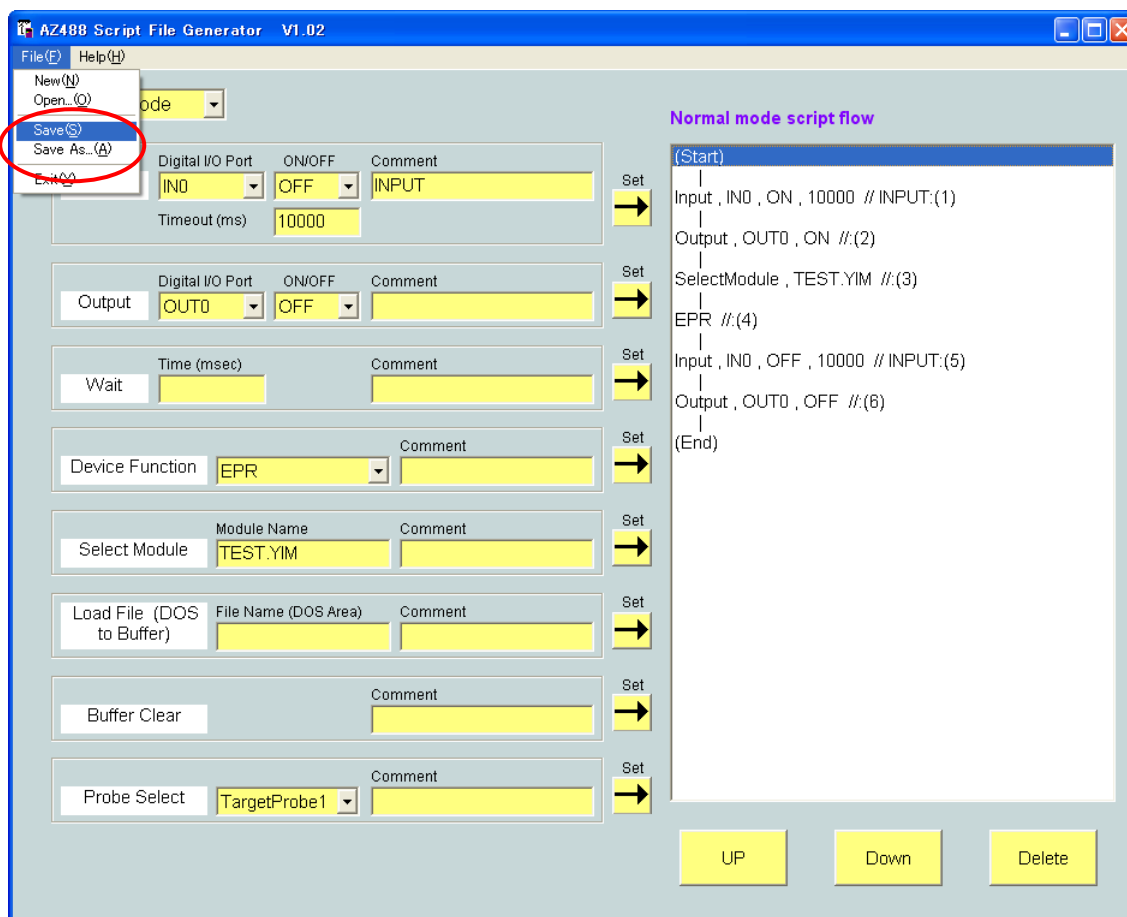
一度設定したデータは、スクリプト表示リスト内の削除したいデータを選択後、スクリプトデータ削除ボタンもしくはキーボードの **Delete** キー押下で削除することができます。

また、スクリプト表示リスト内のデータを選択後、スクリプトデータアップボタンやスクリプトデータダウンボタンを使用すれば、スクリプト表示リスト内のデータを並び替えることが可能です。

なお、**(Start)**および**(End)**の行は並び替えや削除を行うことはできません。

## 5.2 スクリプトの保存

編集したスクリプトを保存する場合、Fileメニューの **Save As** をクリックします。

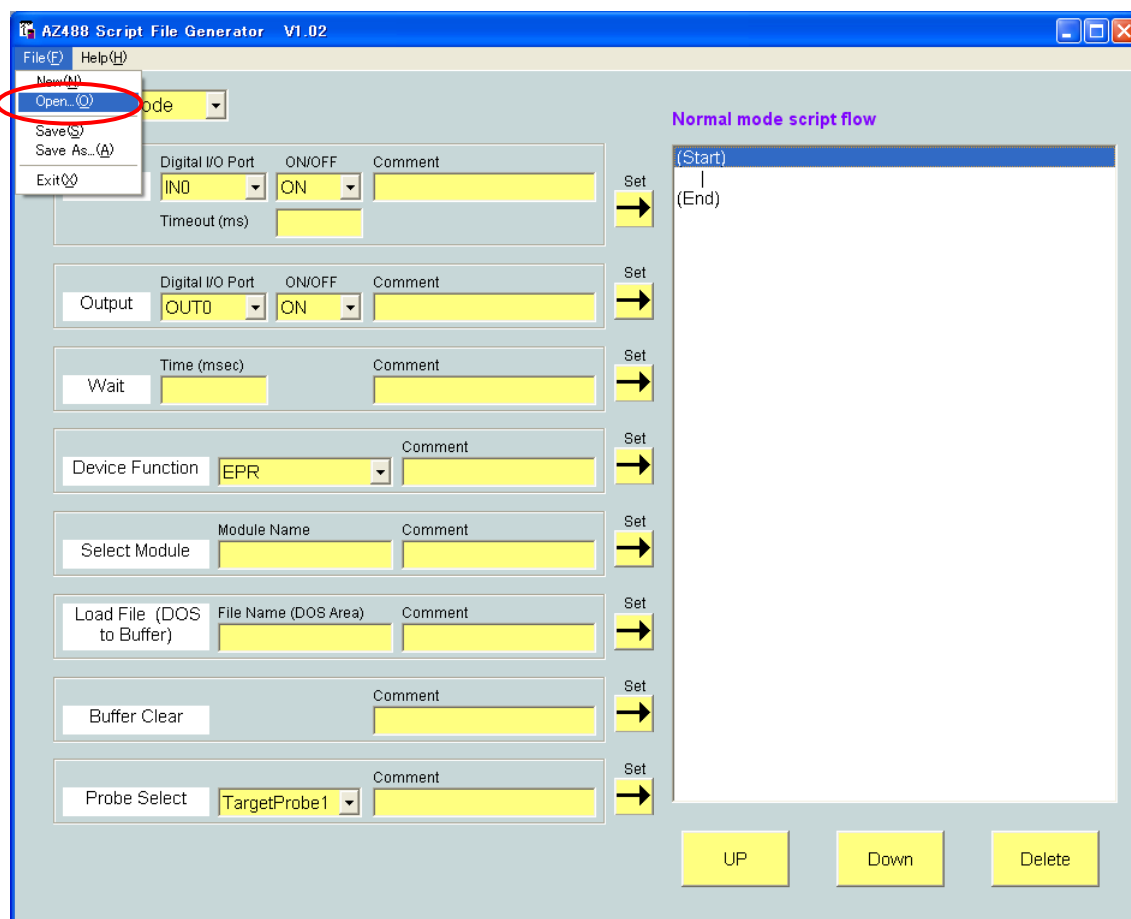


ファイル保存用ダイアログが表示されますので、保存先とファイル名を指定してファイルの保存を実行します。ファイルは、拡張子".SCP"のファイルとして保存されます。スクリプトの保存を実行すると、モード選択コンボボックスの選択状態に関わらず、ノーマルスクリプトとエラースクリプトが1つのファイルにまとめて保存されます。

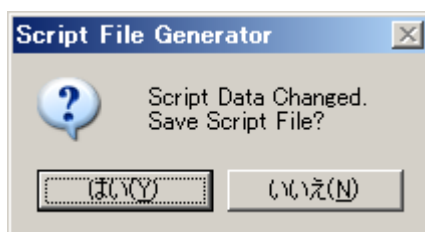
また、Fileメニューの **Save** をクリックすると、スクリプトファイルを上書き保存します。ただし、スクリプトの新規作成時など、上書き保存先のファイルが存在しない場合、**SaveAs** と同様の動作となります。

### 5.3 スクリプトの読み込み

スクリプトファイルからスクリプトを読み込んで編集する場合、FileメニューのOpenをクリックします。



このとき、スクリプト表示リストの内容が編集されている場合、現在のスクリプト表示リストの内容を保存するか確認するメッセージが表示されます。



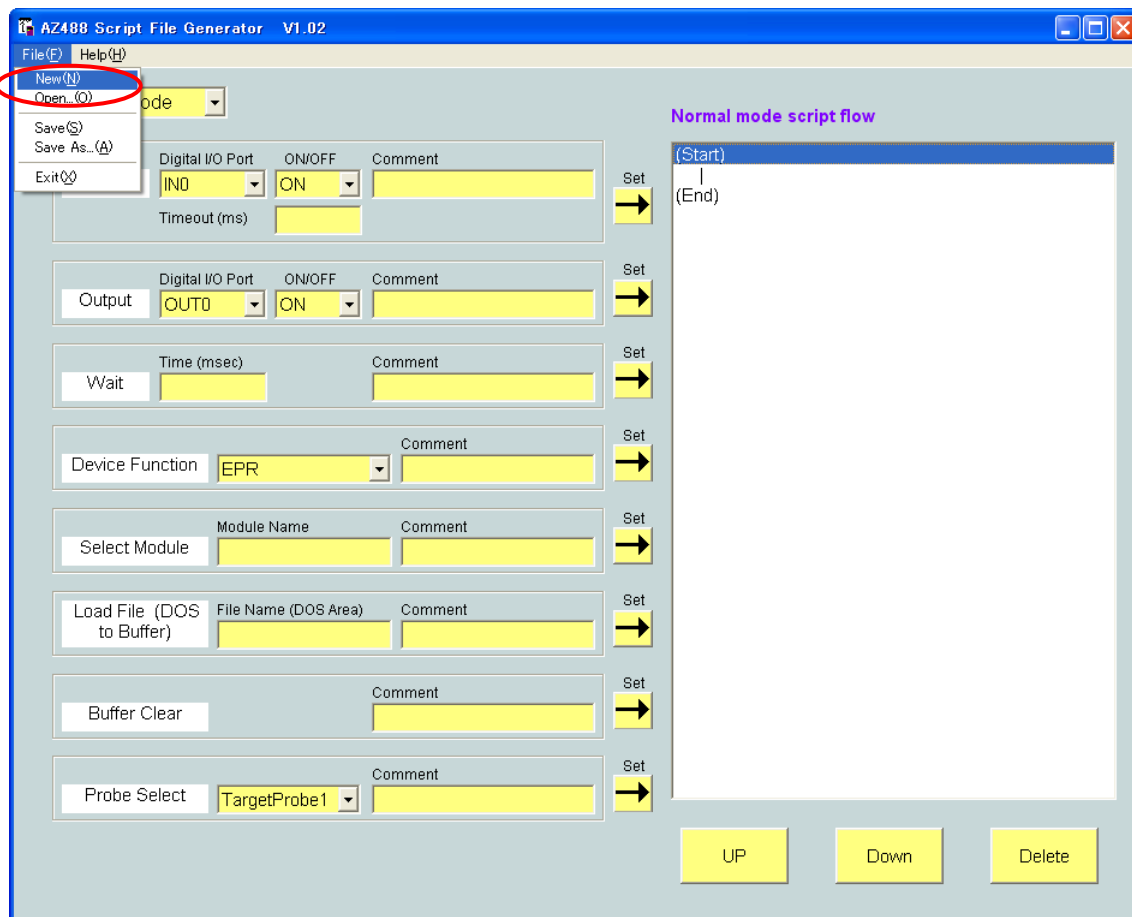
“はい”をクリックすると、スクリプトの保存を実行後、スクリプトファイルの読み込みを実行します。

“いいえ”をクリックすると、スクリプトの保存を行わずに、スクリプトファイルの読み込みを実行します。

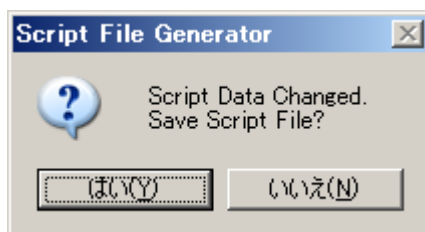
ファイル読み込み用ダイアログが表示されますので、読み込みたいファイルを指定します。読み込めるファイルは、拡張子”.SCP”のファイルです。  
スクリプトの読み込みを実行すると、モード選択コンボボックスの選択状態に関わらず、ノーマルスクリプトとエラースクリプトが1つのファイルから読み込まれます。

## 5.4 スクリプトの新規作成

スクリプトを新規作成する場合、File メニューの New をクリックします。



このとき、スクリプト表示リストの内容が編集されている場合、現在のスクリプト表示リストの内容を保存するか確認するメッセージが表示されます。



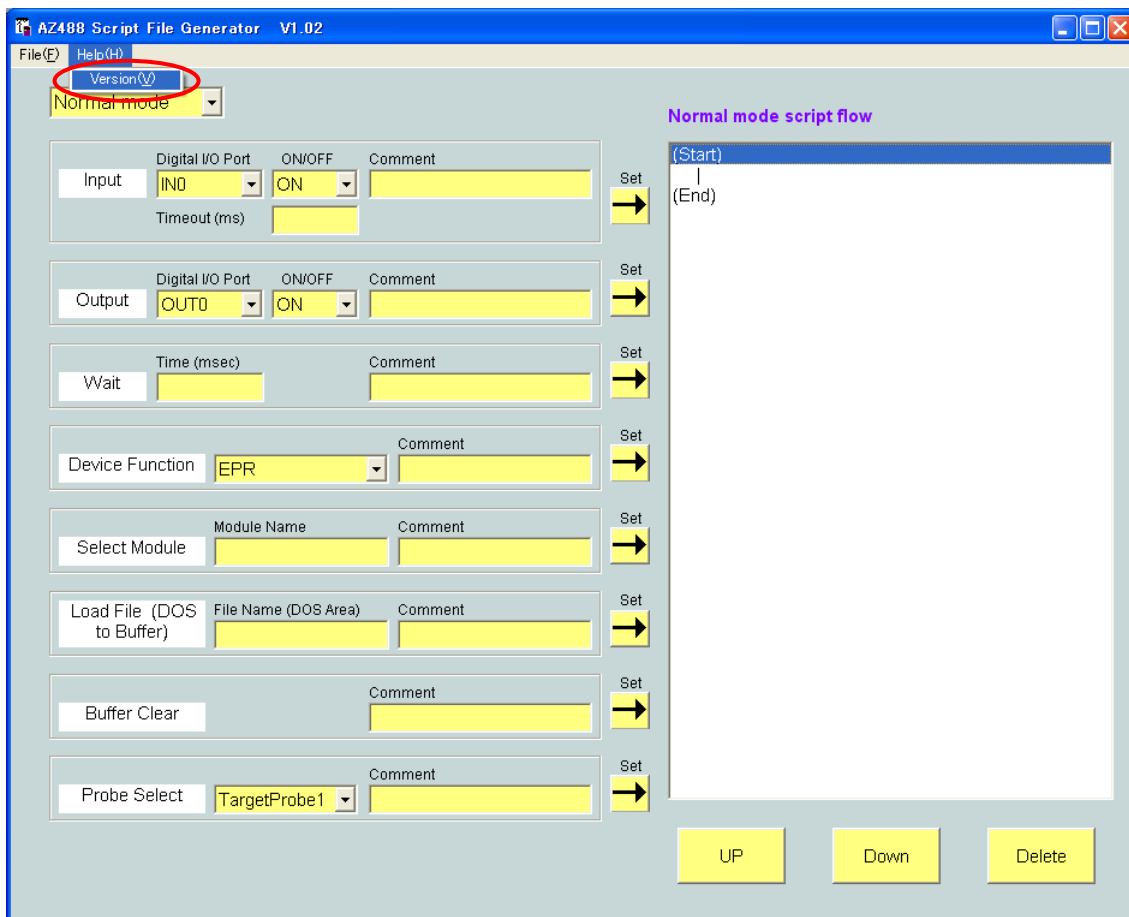
“はい”をクリックすると、スクリプトの保存を実行後、スクリプト表示リストのクリアを実行します。

“いいえ”をクリックすると、スクリプトの保存を行わずに、スクリプト表示リストのクリアを実行します。

スクリプト表示リストの内容がクリアされるとともに、全ての入力ボックスの内容がクリアされ、コンボボックスの選択は AZ488 起動時の状態に戻ります。

## 5.5 バージョン情報表示

AZ488 のバージョン情報を表示する場合、Help メニューの Version をクリックします。



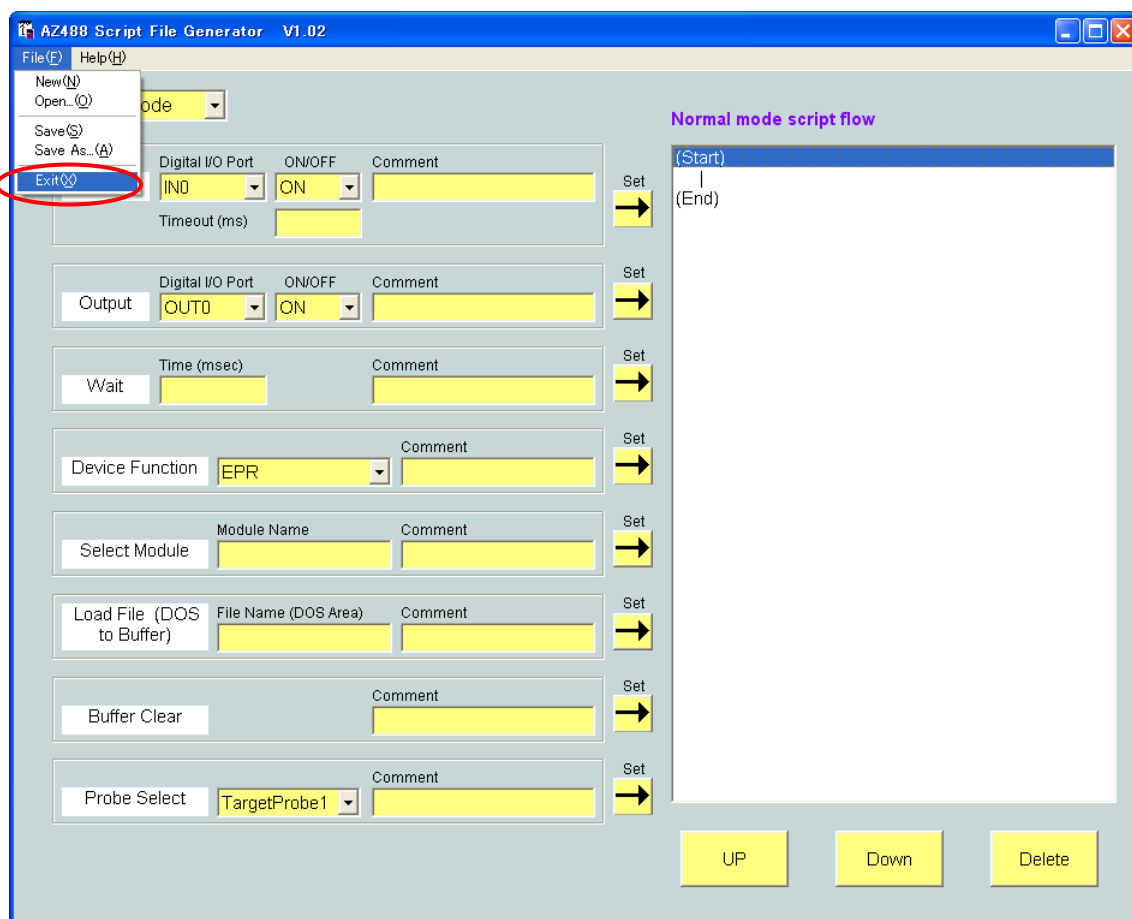
バージョン情報画面が表示されます。OK ボタンをクリックすると、バージョン情報画面が閉じます。



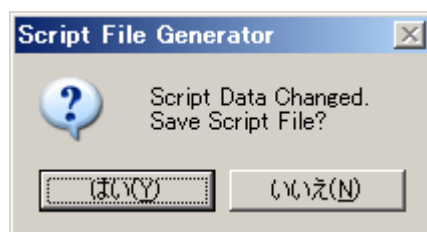


## 5.6 AZ488 の終了

AZ488 を終了する場合、File メニューの Exit をクリックするか、ウインドウの×ボタンをクリックします。



このとき、スクリプト表示リストの内容が編集されている場合、現在のスクリプト表示リストの内容を保存するか確認するメッセージが表示されます。



“はい” をクリックすると、スクリプトの保存を実行後、AZ488 を終了します。

“いいえ” をクリックすると、スクリプトの保存を行わずに、AZ488 を終了します。

## 6 エラーメッセージ

AZ488 使用中に発生するエラーのエラーメッセージと内容は下記のとおりです。

エラーメッセージ	エラー内容	エラー発生箇所
Number of commands is a maximum.	シーケンス内のコマンド数が上限に達しています。	設定ボタンクリック時
Module name is too long.	入力されたモジュール名が長すぎます。	モジュールセレクト情報設定ボタンクリック時
File name is too long.	入力されたファイル名が長すぎます。	ファイルロード情報設定ボタンクリック時
上記以外	予期せぬエラーが発生しました。	-

## 7 スクリプトファイル仕様

スクリプトファイルのフォーマットは以下の通りです。

(Start) コマンド : コマンド (End)	ノーマルスクリプト
-	デリミタ
(Start) コマンド : コマンド (End)	エラースクリプト
-	デリミタ

ノーマルスクリプトとエラースクリプトの記述は両方とも必須です。  
ノーマルスクリプトとエラースクリプトの間には、デリミタが必須です。  
スクリプトは**(Start)**の行で始まり、**(End)**の行で終わる必要があります。  
スクリプト内に空白行を存在させることはできません。  
スクリプトごとの最大コマンド数は **256** コマンドです。

スクリプトファイルに記載されるコマンドのフォーマットは以下の通りです。

コマンド名	フォーマット
バッファクリア	BufferClear // コメント:(xxx)
モジュール選択	SelectModule, YIM フォルダ名 // コメント:(xxx)
ファイルロード	LoadFile, ファイル名 // コメント:(xxx)
ウェイト	Wait, ウェイト時間(ms 単位) // コメント:(xxx)
DIO 入力	Input, ポート番号, 入力レベル, タイムアウト // コメント:(xxx)
DIO 出力	Output, ポート番号, 出力レベル // コメント:(xxx)
デバイスファンクション Blank	Blank // コメント:(xxx)
デバイスファンクション Erase	Erase // コメント:(xxx)
デバイスファンクション Program	Program // コメント:(xxx)
デバイスファンクション Read	Read // コメント:(xxx)
デバイスファンクション E.P.R	EPR // コメント:(xxx)
デバイスファンクション Copy	Copy // コメント:(xxx)
プローブセレクト	TargetProbe1(TargetProbe2/ProbeSelect) // コメント:(xxx)
コメント行	// コメント

※AZ488 には、コメント行を入力する機能はありません。(コメント行が存在するスクリプトファイルの読み出し、編集、保存は可能です。)

AZ488 では、スクリプトファイル内のコマンドに対し、コマンドが実行される順番をコマンド番号(コメント末尾の:(xxx)) として自動的に付加します。

コマンド設定時にコメントを入力しなかった場合、//の直後にコマンド番号を付加しません。

ノーマルスクリプトとエラースクリプトで、別々にコマンド番号を 1 から付加します。(Start),(End),コメント行には、コマンド番号は付加しません。

コマンドの挿入や削除、順番の変更を行った場合、変更された順番に合わせてコマンド番号を更新します。

スクリプトファイルをロードする際、ロードするファイルのコマンドに付加されているコマンド番号を更新してロードします。

スクリプトファイル例)

(Start)

Output , OUT1 , OFF // out init:(1)

Output , OUT2 , OFF // out init:(2)

SelectModule , TEST.YIM // select:(3)

BufferClear // buff clear:(4)

LoadFile , OBJ.S // object:(5)

Wait , 3000 // wait:(6)

EPR // epr:(7)

Output , OUT2 , ON // pass:(8)

(End)

-

(Start)

Output , OUT1 , ON // error:(1)

(End)

-